

第197回 全経簿記検定試験 上級 一 会計学一

模範解答

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

問題 1〔予想配点：正誤・理由ともに正解で各⑤点、合計 50 点〕

	正誤	理 由
1.	○	
2.	×	当該固定資産については、部分的取替に要する原価を <u>収益的支出</u> として処理する方法（取替法）を採用することができる。
3.	×	当該不動産については、 <u>時価ではなく原価で評価</u> し、投資その他の資産の区分に計上したうえで、当期末における <u>時価等を注記</u> する。
4.	○	
5.	○	
6.	○	
7.	○	
8.	×	外貨建の子会社株式及び関連会社株式については、取得価額を <u>取得時の為替相場</u> により円換算した額を付する。
9.	○	
10.	×	自己株式の取得、処分及び消却に関する付随費用は、損益計算書の <u>営業外費用</u> に計上する。

問題 2 [予想配点：丸数字は配点を示す、合計 30 点]

問 1	用 語	用 語
(a)	事 実 ②	(e) 期 間 比 較 ②
(b)	選 択 ②	(f) 財 務 内 容 ②
(c)	毎 期 ②	(g) 注 記 ②
(d)	利 益 ②	

問 2

組織再編に伴う、棚卸資産の評価方法についての、総平均法から先入先出法への変更 ⑤

※ 正当な理由と変更例が記述されていればよい

問 3

当該変更が、会計事象等を財務諸表に、より適切に反映するために行われるものではないため ⑤

問 4

同一の会計事実について複数の会計処理が容認されている場合、いずれを選択するかによって計算結果が異なるため、「真実な報告」とは、相対的な真実を意味していると解釈でき、継続性の原則を遵守することは、相対的な真実の報告に貢献する。 ⑥

問題 3 [予想配点：丸数字は配点を示す、合計 20 点]

問 1

基準	支配力基準
長所	支配従属関係を <u>実質的に判断</u> することができる ⑤

基準	持株基準
長所	支配従属関係を <u>客観的に判断</u> することができる ⑤

問 2

株式の取得後、短期間で処分することが予定されている場合 ⑤

問 3

製造業と金融業の事業内容は、別々の事業セグメントとして報告セグメントが決定され、当該報告セグメントの概要、財務情報等が分割して報告されるため、金融子会社を連結の範囲から除外しなくても、利害関係者の判断を誤らせない。 ⑤